

研究タイトル:

古インドアリア語文献群の歴史言語学的研究

氏名: 笠松 直 / KASAMATSU Sunao E-mail: skasamatsu@sendai-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 日本印度学仏教学会・日本仏教学会・印度学宗教学会・日本歴史言語学会

研究分野: 印度学, 仏教学, 比較言語学

キーワード: Veda, Sanskrit, Pāli, Buddhist Hybrid Sanskrit

技術相談: ・古インドアリア語・中期インドアリア語の歴史言語学的分析

提供可能技術: ・南方仏教および大乘仏教經典の研究 ・上掲領域に関わる思想・文化・儀礼研究



研究内容: ヴェーダ文献やパーリ語・仏教混交梵語文献を対象とした言語・思想・文化研究

■ヴェーダ文献研究

仏教は古代インドで発生した。仏教以前の思想は、いわゆるヴェーダ文献に保存されている。ヴェーダ文献の相当部分は、儀礼を巡って展開している。私はそのうち、「祭火の礼拝 Agnyupasthāna」儀礼とその成立過程を検討した。この儀礼は、「祭火への献供 Agnihotra」(の、古くは夜の)献供に際して行なわれる儀礼である。この「拝火」儀礼の要素は、インド-イラン共通のもので、この研究は両地域の宗教文化の理解のために重要である一方、その後展開した文化へとえば、我が国にも伝わる護摩儀礼—の理解のためにも有用である。

ヴェーダ文献群の研究は、それ自身が独立した研究課題であるが、以下に述べる研究課題のための基礎ともなる。

■南方仏教および南方仏教聖典語・パーリ語研究

スリランカ・東南アジアにひろまった仏教は、日本を含む東アジアに伝わった大乘(北方)仏教と様相を異にする上座部仏教であり、流伝地域によって南方仏教とも呼ばれる。その聖典を伝える言語をパーリ語という。紀元前から紀元 4-5 世紀頃に主要な文献が成立したが、その後、あたかも西洋におけるラテン語のように使用され、その文獻量は膨大である。近年、東南アジアは経済発展が著しく、その文化的基層をなす南方仏教の理解は重要性を増している。また、西欧諸国をはじめとして南方仏教が教線を展開しており、世界共通の教養としての位置も獲得しつつある。文献群の基礎研究—本文校訂・索引・翻訳の作成—が一段落するなか、教学研究のみならず文献群が伝える古代インド世界の生活文化の解明も求められるところである。

■大乘仏教經典: 梵文法華經研究

本邦に伝わった大乘仏教經典のうち、『法華經』は最大の文化的影響力をもつものの一つである。これを依用する伝統宗派は数多く、新宗教諸派の多くも追隨する。そのような『法華經』だが、その成立の次第について諸先学の見解は、一定の方向性・合意は認められるものの、議論百出の状態である。その理由の一端は、諸先学が主に漢訳『法華經』を重視すること、先学の多くが熱心な仏教徒であり、その議論が哲学的方面に偏りがちであったことにあったかと思われる。当然としては梵文=サンスクリット本のうち、従来注目のすくなくあった中央アジア所伝・カシュガル写本が呈する語形・文法現象が古形を残すことを確認し、かつ章によってやや特徴を異にすることに着目し、文法現象という客観的指標をもって梵文『法華經』の層序関係を解明することを志し、着実に成果を挙げつつある。

関係論文: 【仏教混交梵語】笠松直「梵文『法華經』における動詞 *ās* の活用について」『南アジア古典学』第 17 号, 2022 年, pp.125-136; Sunao, KASAMATSU 『*mā bhaiṣṭa / bhāyatha*』『印度学佛教学研究』第 70 巻第 3 号, 2022 年, pp.1095(57)-1101(63); 笠松直「KN 322.4 *mā ... sociṣṭa*」『南アジア古典学』第 16 号, 2021 年, pp.139-150; 笠松直「仏教混交梵語文献におけるアオリストの問題再考—*abhūt / abhūsi / abhūṣit* の歴史素描—」『歴史言語学』2017 年, 第 6 号; 【パーリ語】笠松直「夜の王—*naḡaraguttika*—「都市の守護者」考—」『論集』第 46 号, 2019 年, pp.144(69)-127(86); 【梵語学・言語学】Sunao KASAMATSU, Inflections of *dā, pra-dā, pra-yam* and Their Suppletion in the Saddharmapuṇḍarīka-sūtra 『印度学仏教学研究』第 66 巻第 3 号, 2018 年, pp.1063(89)-1070(96); 笠松直「Skt. *argha-larghya-*, 仏教語「関伽」と Lat. *aqua*」『歴史言語学』2014 年 11 月, 第 3 号, pp. 53-65; 【思想一般】笠松直「「狂気」を巡って—『沈黙の春』邦訳の問題点とその背景 II—」『仙台高等専門学校広瀬キャンパス 教育研究紀要』2021 年 51 巻, pp.1-7